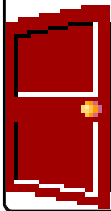


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 44

桑村小学校令和5年9月11日 文責 浅井

自分の世界が広がるよ

小さい頃は、本を読むことよりも外でドッジボールや鉄棒、ゴム跳びをしていることが大好きでした。小学校時代、図書室に通ったことは、ほとんどなかったと思います。

こんな私ですが、本との出会いで印象に残っていることがいくつかあります。

その中の一つは、娘ができた時に始めた読み聞かせです。読み聞かせは、子供の想像力や言語力、集中力が高まるからとても良いことだと聞き始めました。お腹の中にいる子に毎晩10分程度の本を読み聞かせしました。生まれて大きくなってからは、毎週のように図書館に通い、本を借りてきては読んでいました。こんなに読んだのに、娘は小学校に入學したときは、ひらがなを読むこともたどたどしい感じでした。「あんなに読み聞かせをしたのに、どうして？」と思ってしまい、息子の時は読み聞かせをあまりしませんでした。でも、そんな娘は小学校3年生になって本の楽しさに目覚め始め、本が大好きな子になり、国語が大好きな子になりましたが、一方読み聞かせをあまりしなかった息子は小学生になっても読書の好きな子ではありませんでした。このときになって『本を読むこと、声に出して読むことって、すごい力があるんだな。読書って奥が深いな。』と感じました。

自分の好きな本を読み、その物語に夢中になっているうちに自然と読解力が育ち、活字を読むことで語彙力がつき、国語力が上がっていく。いろいろな本を読むことで知識が広がり、いろいろな物語を読みその登場人物に触れていくことで想像力が豊かになっていく。読書は人が成長していくうえで大切なものなんだなと今は思います。

そう分かったのは、大人になってからですが。タイムマシンがあったら、小学生のひろみちゃんに「読書をたくさんしようね。自分の世界が広がるよ。」って教えてあげたいです。

娘の好きだった本を紹介します！『おいしいのぼうけん』（古田足日、田畑精一著）



この本は、さくら保育園のさとしさんとあきらさんが、押入れに入れられてしまい、押入れの中を冒険する物語です。かけぬけるように展開するふたりの大冒険。

冒険の途中で、ふたりをやっつけようと追いかけてくるねずみばあさんから、逃げるところやおもちゃのミニカーに乗るところでは、娘がはらはらどきどきしていたことを思い出します。さとしさんとあきらさんが二人で困難を乗り越えて、絆を深めていくところが魅力的です。

この本は娘の大切な思い出の一冊です。ぜひ読んでみてください。